

青山御流

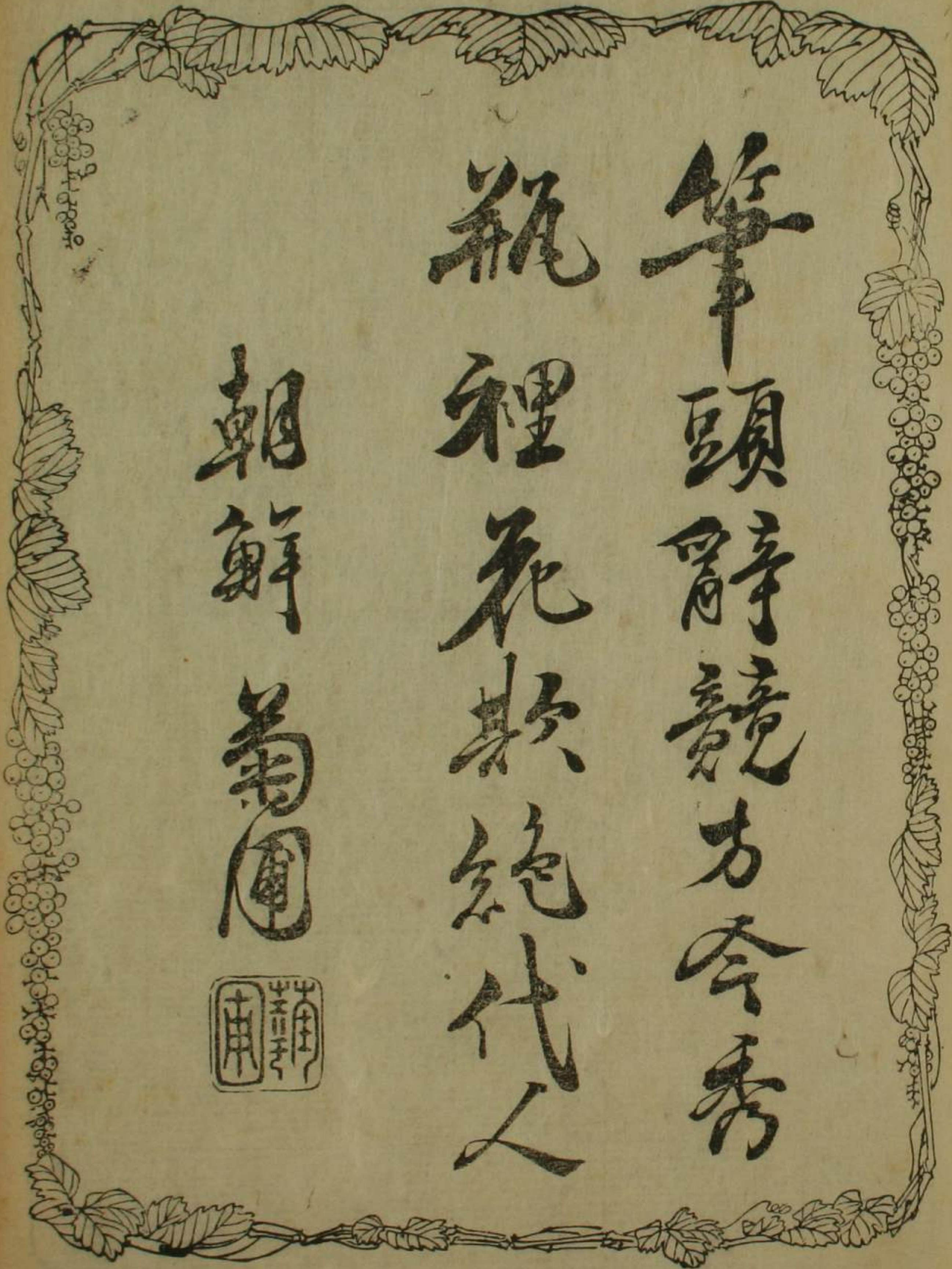
活花手引種後篇五



多
2848
10止



9
2848
10止



筆頭辭競方今秀

瓶裡花款絕代人

朝鮮菊圃





山茶 白三花



天保七年丙申初冬於紫野大德寺
塔頭松源院勅使之間挿之

采滴亭蘭溪
通稱 奥村勘貞藤原金良

嗚呼器哉這升筒也奧卯某雅人
者今丙申秋九月
大燈國師五百年遠傳頓修
押奇花備
教仗尊官之高笑厲山僧請託乃
帑錦其五年題云

一以年尊者升表采國師花
豈常今朝色千秋簇彩霞

丙申臘月

前大德寺書室



○活花手引 卷之五

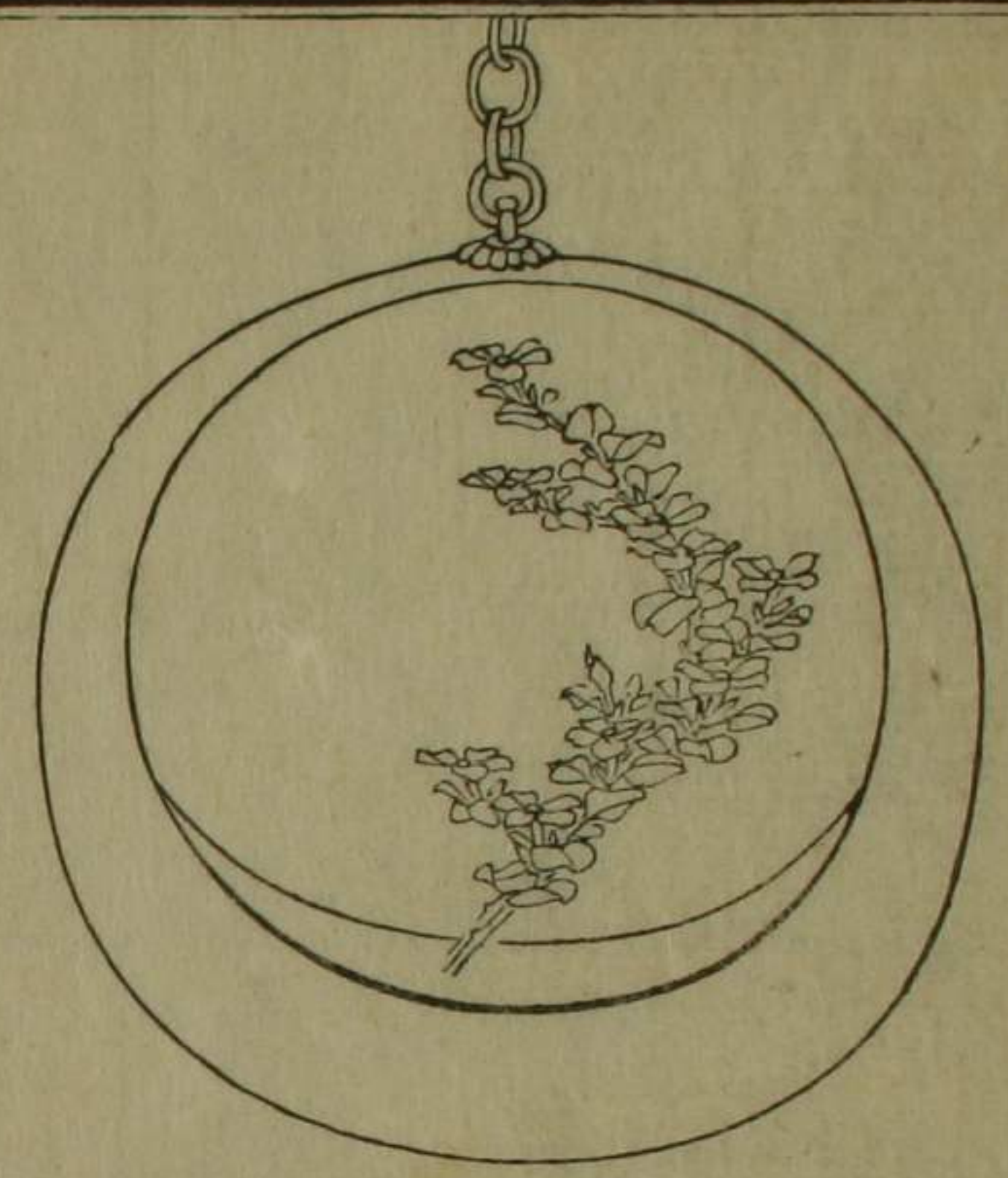
芒 ^十 _き
翠菊 ^{こん} _{きく} 十七輪
嘉永二年己酉八月挿花
華頂山大書院



開右齋荷月
通稱 民部卿學念

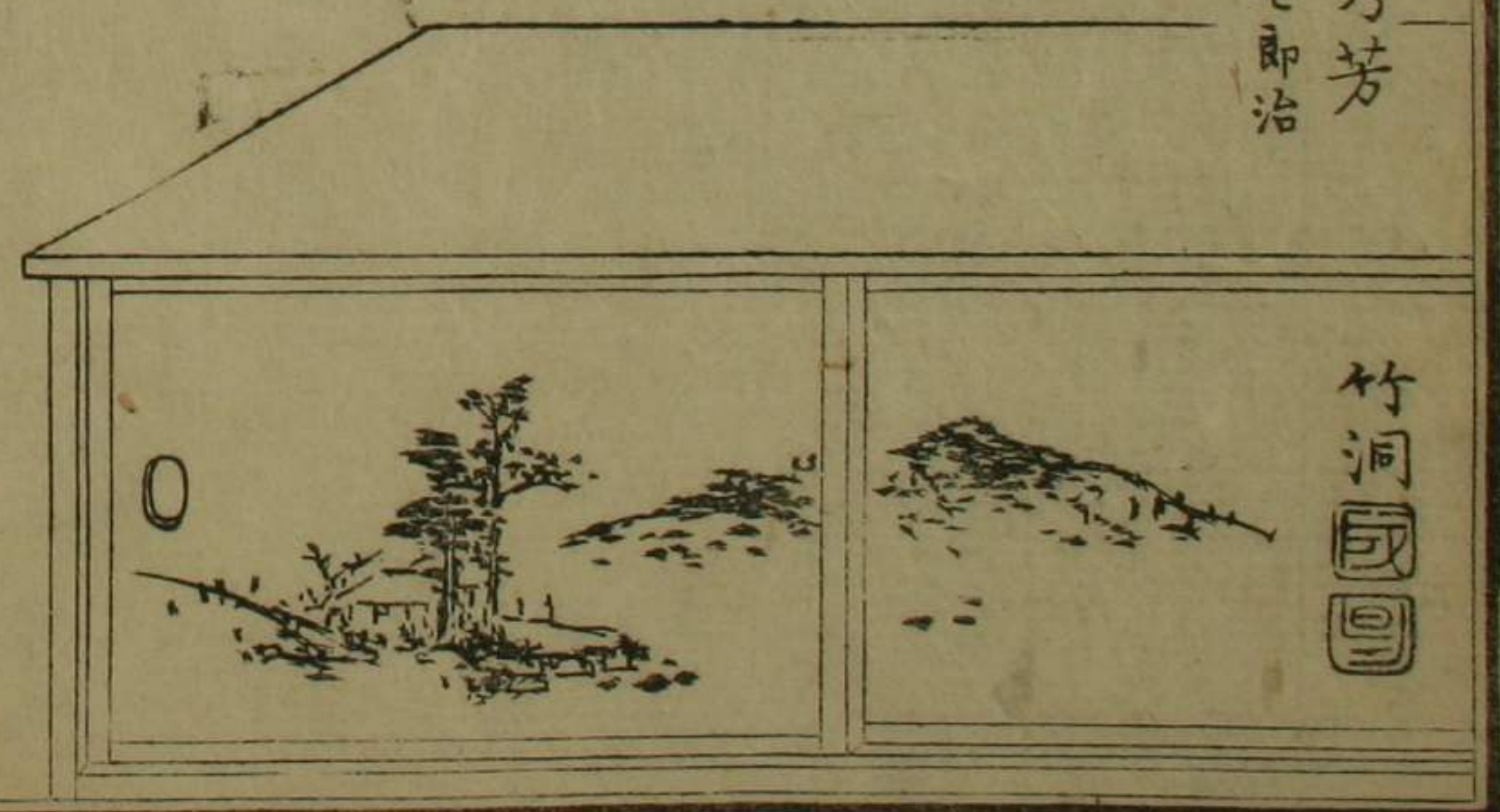
秋風の菊はみよむねのうよみ哉
ちか
子代とるゝゝ花すまき哉

紅素馨 ^に _{しゆく} ^さ _{きん}



壽陽齋秀芳
通稱 永松七郎治

月言半有茶田地看後
姪娥我草花 物披

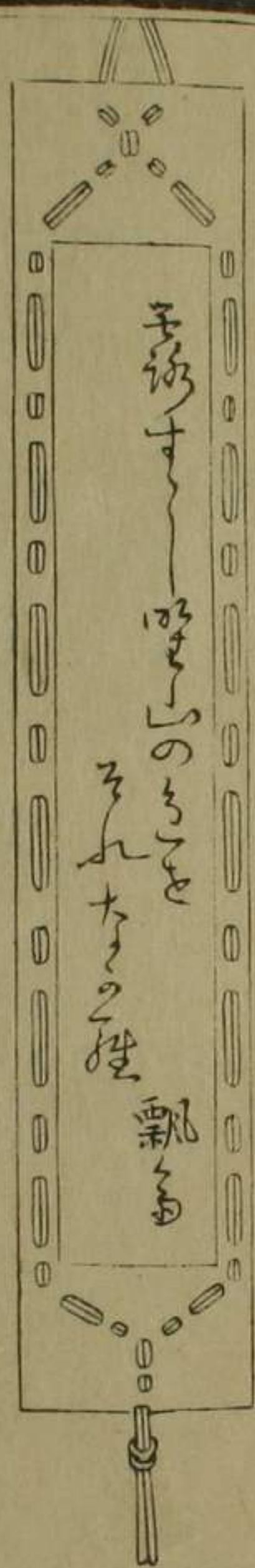


竹洞

天女花
聖麥



閑月齋
通稱 北川佐兵衛



竹器銘
水月橋

芍藥 十一花



嘉永元年戊申四月捕於
本園寺大客殿上檀

澤芳亭和約

通稱 久成院日昇

押小路大外記師身朝臣

是も水月富く為光
いふも女色海公也
最ふくはか 伯我書

玉簪花 九葉三花

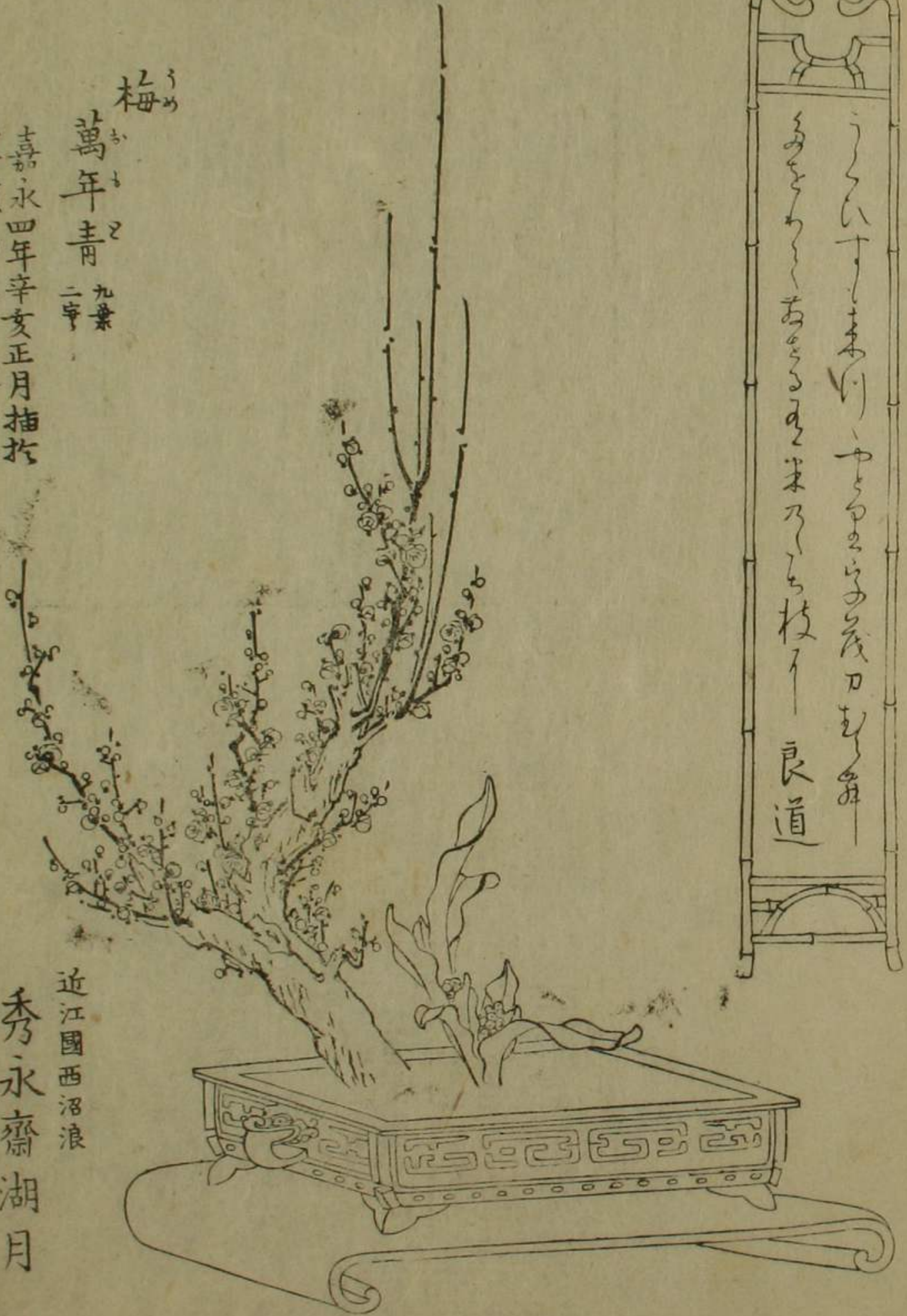


○五
章雲齋青雅
通稱 鈴木金兵衛

唯このめいなるを
とせしむるに
玉をふりしむるすこし
葉秀

うゝいししきりしむるは口むし
あまのりしむるはまらしむるは
良道

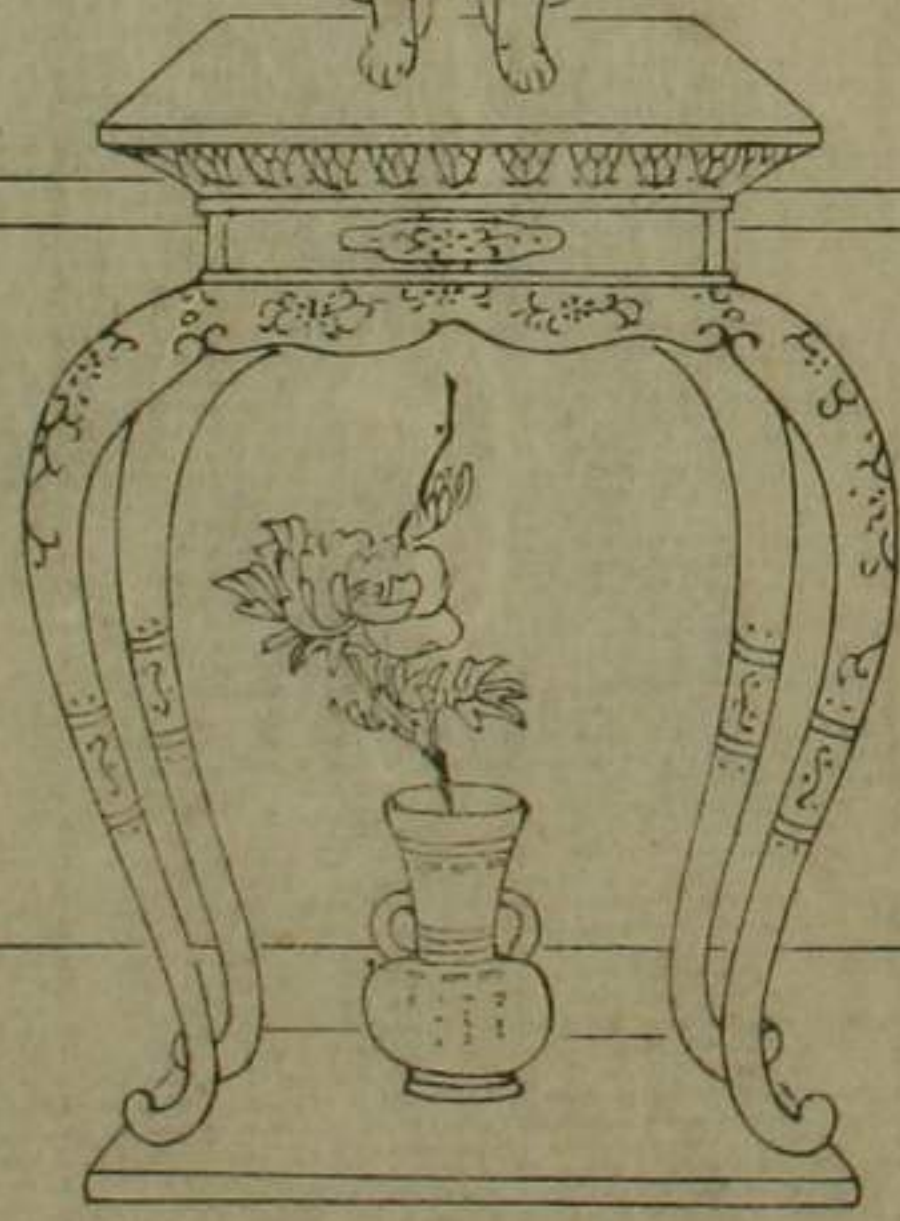
梅
萬年青 九葉
嘉永四年辛亥正月抽於
華頂山大書院



近江國西沼浪
秀永齋湖月
通稱 西田莊左衛門

東園宰相中將基貞卿

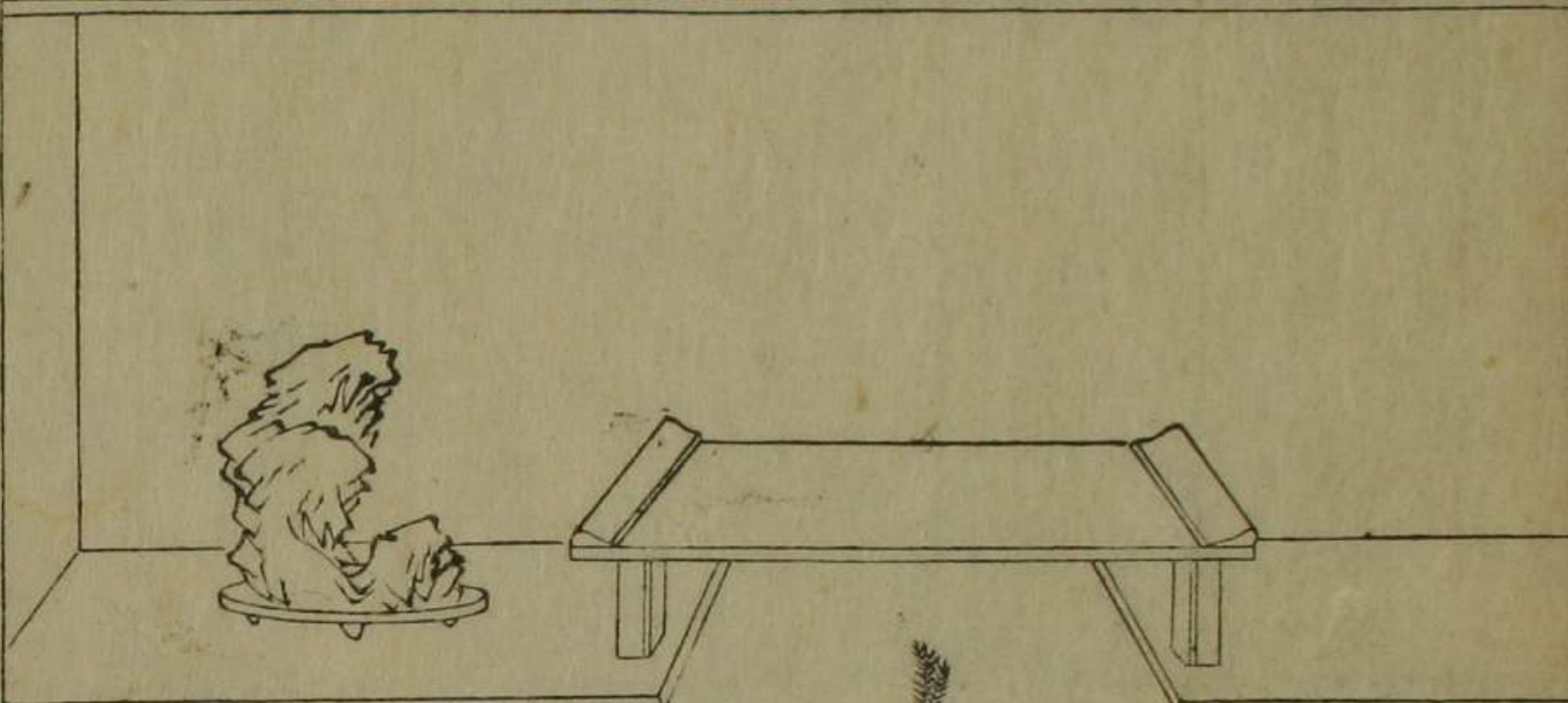
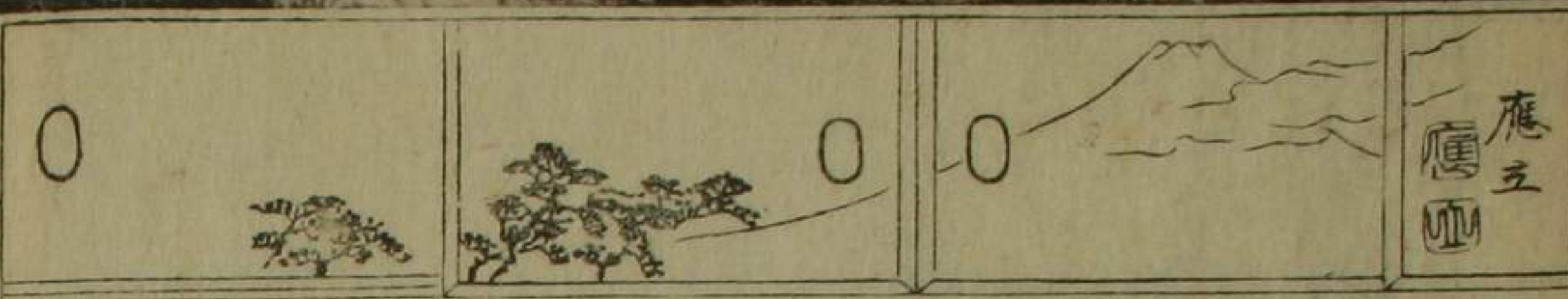
參議元中將反
 佐少知久月
 花月久月
 乃月久月
 玉津地人強
 心より



温牡丹

再香齋醉花
 晴月國男
 沼尾一藤辰光紹

應五
應



矮檜
 水仙三卓



春耕齋元陽
 通稱 井上力松

蓮二花
五葉

嘉永七年甲寅閏七月柿於
六條枳殼御殿臨池亭

壽蓬齋仙雅

通稱 吉田伊三郎



應文寫真

吹上菊十五種
竹畧銘鼎

かゝて了そあもはもせ
あふ阿今の漢語名こり
あらたえ乃はま 美哉



美昇軒梅月

通稱 北川權次郎

一葉十三葉



○
葉静帆之静
風扇葉之扇

木文
静扇

落葉松
同蒿 五草



○七ノ后
榮松齋 峰雅
通稱 八木佐兵衛

たろこ形ぬみと珠の
色を替りまきて
ふらふらと枝や
こもれそ宛心む 或如

盆山 夏之瀧

嘉永四年四月朔日於
東山雙林寺文阿弥會遊行之圖

水波不却也

~~~~~

~~~~~

湯代のまじり

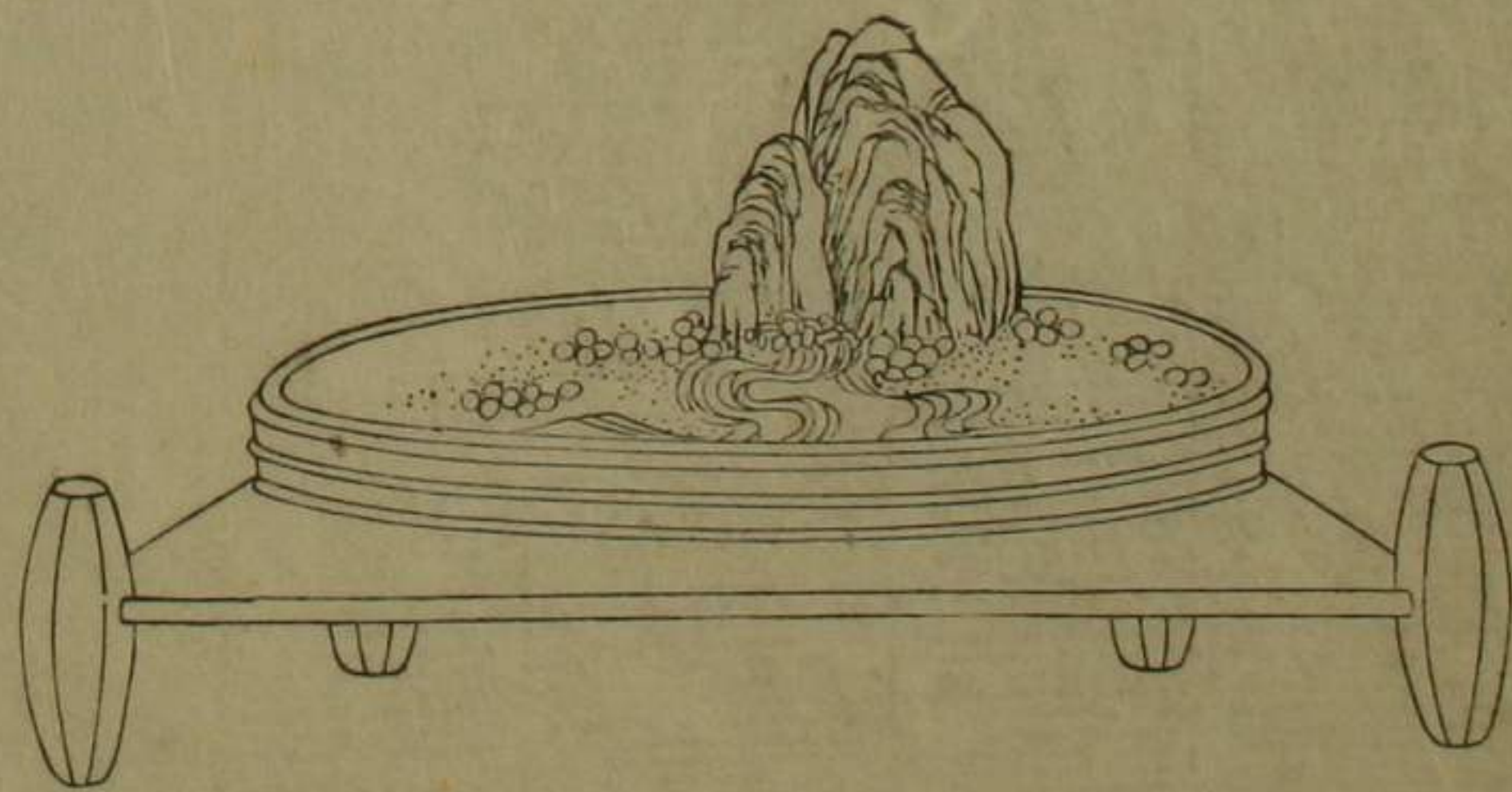
~~~~~

良英

。九

藏六菴義貞

通稱 前川四郎次郎



保年宮

秋葉方佳  
色  
持陶法与



北朝時雨より九輪  
水仙 五草

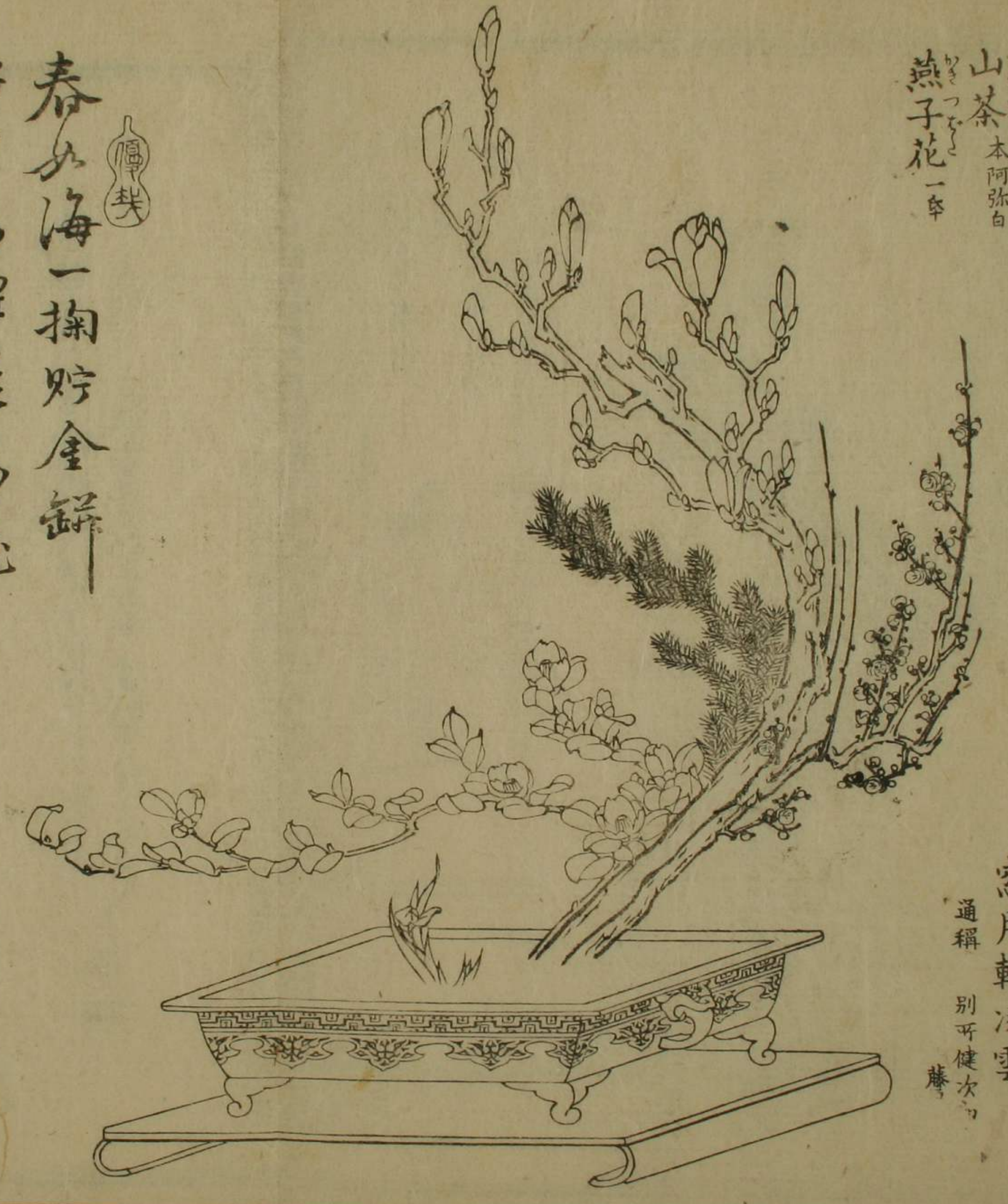
器 廣耀齋



壽僊齋瘦石

通稱 赤尾半左衛門

玉蘭 たまぐさ  
 紅梅 こうばい  
 五粒松 ごりゅうしょう  
 山茶 さんぢあ  
本阿弥白  
 燕子花 つばき  
一草



窓月軒凌雲  
通稱 別可健次  
藤

春如海一掬貯金銀  
 好夢易醒花易老  
 憐玉惜金擁雪屏  
 昔語隔今屋  
傳契

夢江南調  
 月洲居士

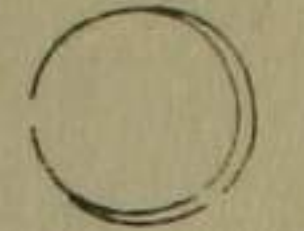
梅



大和國郡山

蓬月齋花嘯

通稱 宇野源之助



冬も清く水際をく 日おき  
 五末乃を

南天燭

寒菊



香風軒翠煙

通稱 春日龜彌太郎

三ゆきあのみみ河も言九うま  
 尔 花のすま入 正切

柳 ななき  
 五鬢松 ごのぶら  
 菊 きく  
まろき  
 十輪



器 青磁七官 天龍寺所藏

嘉永三年庚戌九月洛西嵯峨天龍寺  
 開山夢窓國師五百回諱法會時挿之  
 於方丈書院

香泉軒子篤  
 通稱 安村吉兵衛

双

一雙出色出凡塵  
 數粒煠煙二人辯  
 况此教憲闡  
 細韵琴聲  
 長洋讀書人  
 亥之



射干 ひまふ  
五辛



筑后州柳川  
一滴齋信城  
通稱 真勝寺

ひまふの葉は苦味あり  
夕の世にまたも涼しき

八角金盤 やっぺ  
燕子花 うらつてし  
櫛二軒 すく

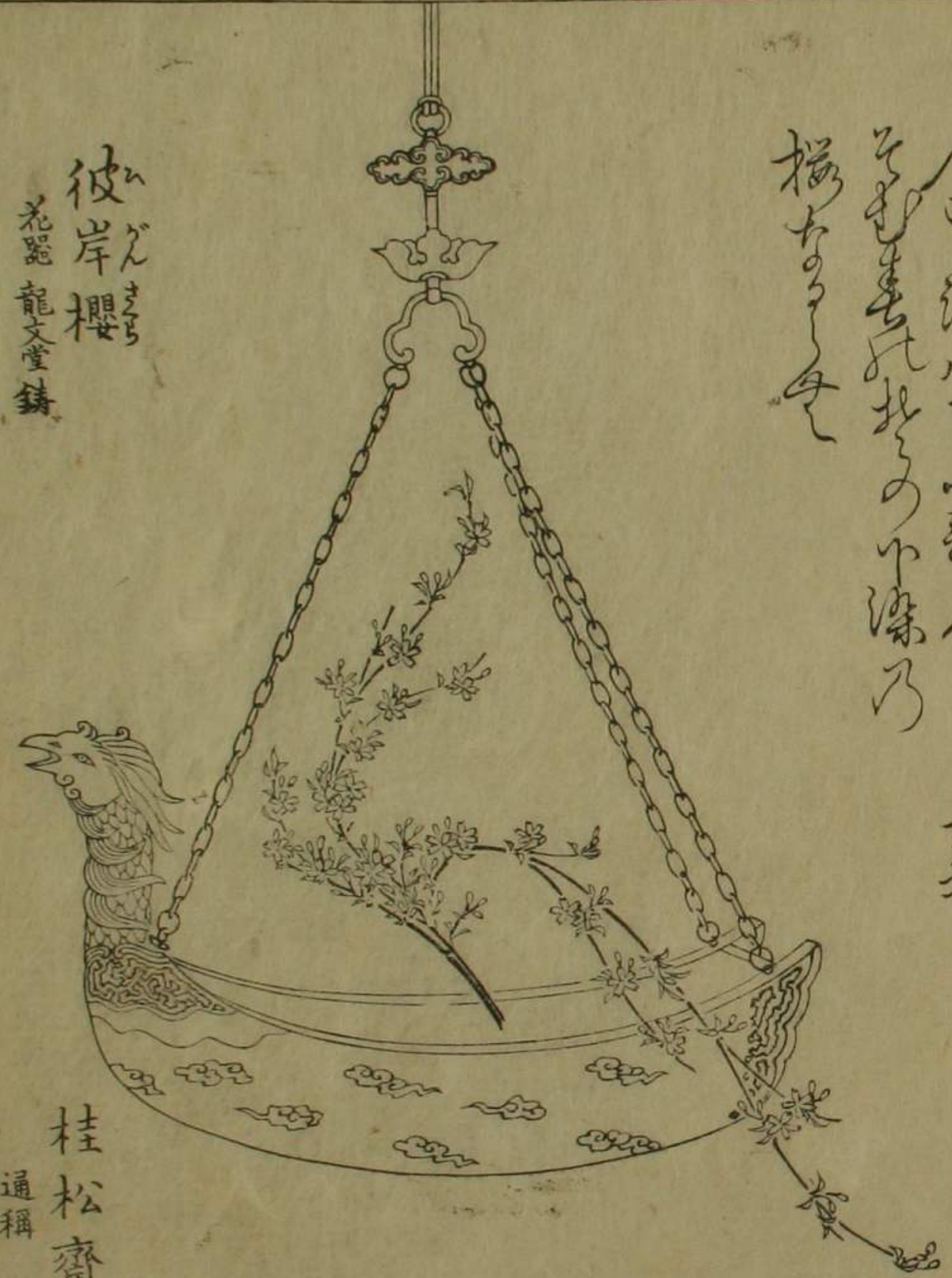


開雲齋野鶴  
通稱 森本武助

柳川の葉は苦味あり  
夕の世にまたも涼しき



彼岸櫻  
花器 龍文堂鑄



桂松齋花友  
通稱 長谷川與四郎

人あはれはさるるに  
そはさるるに  
梅のさるるに  
美知

一葉十五葉  
花器 江都 渡雲齋鑄



玉松齋眉山  
通稱 植村駒之助

蝶  
蝶飛莊史、非蝶  
幻爰一場或亦人  
主の角



清亮  
龍

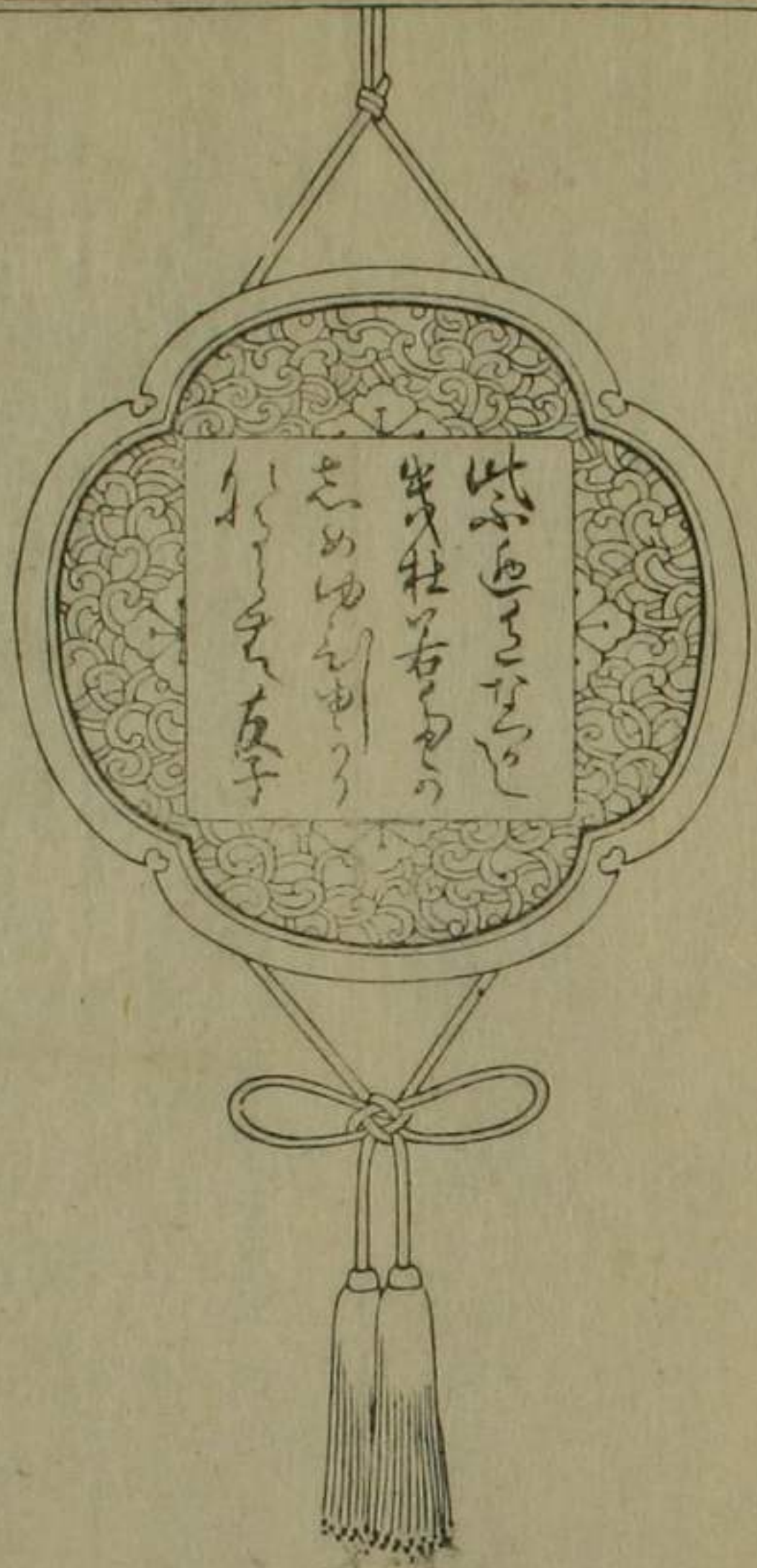
燕子花 三年

花器 山田無雙講



松關齋如友

通稱 井上茂左衛門

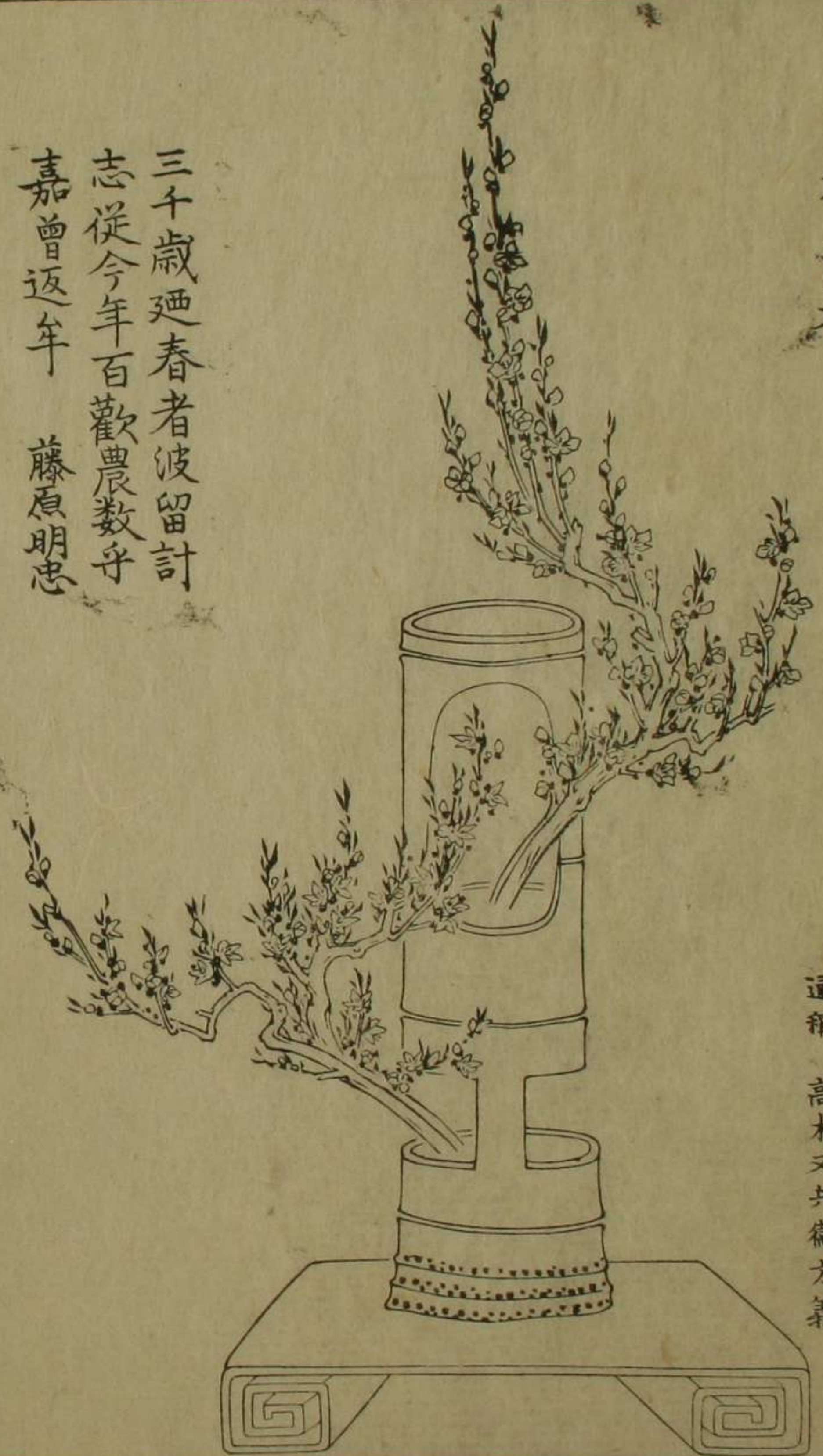


此は通し  
先社古  
志のゆ  
はる友

白桃 紅桃

竹器 銘 扇門

三千歳廻春者波留計  
志従今年百歡農数乎  
嘉曾返年 藤原明忠



大和國奈良

壽春齋香雅

通稱 高木又兵衛方義

菊 白山 二十七種

大和國郡山

老松齋梅雅

通稱 澤村平兵衛



たれそふうそてゆまんとせん  
 のあぢやうゆいさのしんせふ  
 七月

廣性

懶 逐 秋 晴 古 出 家

老 來 慚 以 髮 子 還 春

三 應 心 雜 爲 凡 壽 六

陰 逸 人 對 隱 逸 也

郡山

老 醉 堂



奪將化機手搖曳弄風波只  
藉一瓶水生無盡時

張氏紅蘭



豌豆

及木齋洲雅  
通稱 川嶋直次郎

花菖蒲  
七車



大和國奈良  
壽周齋道雅

通稱 小野重右衛門



堀川正三位康親卿



三ノ本  
うすくさ  
わさき  
たて  
おろし  
おろし  
おろし

三ノ本

信輝

嘉永四年辛亥初冬挿枝  
園御殿御座之間

五葉松  
水楊梅  
山茶  
白三花  
檜  
葉細意  
人面竹  
水仙  
葉三葉  
葉二葉

龍頭齋堂

山城國准御會頭  
春月亭紫田濯柳



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40

人心梅のあまさをいふたもの  
おの母を園毎にあつたれつあ  
るのそつちのふいそあつたにあ  
る茶のおほえはつて

延之

世中ふかからぬ茶のてらる時  
ことろりたる支子のみも茶

依 花の果園字色指授如也園

繁と吾平種

種又石雪園

草木の正字異名等種系園中は傍に標出すべきなり  
園位の根雑せしとを憚りて左に贅記し

賢木

古事 坂木日本 龍眼木漢語 神室基但儂字をま

鶯宿梅

紀貫之の女梅の木とをいふ歌よみりふより此名あり  
又一説より和泉式アの手とすると非なり

山茶

本艸 書記及和名抄ホ海石榴を以て豆波木と訓俱し非なり海石榴を朝鮮名也す椿と書す  
細目 いと古より訛り多き椿と和名玉ツバキ又まきと云ふものて漆樹に類せし地也

菊

和漢 書記久々といふ古訓あり和名抄ふ加波良与毛木一云可波良於波岐と有り  
通名 又類聚國史日本後紀三チバカマの歌ありは菊といふなり鈴屋箱の説あり

竹

本艸 一名此君 和名千尋草 一盤草  
江南竹 一名雪竹 南竹  
竹と書ハ雪中で早く竹を生むる竹の名也

萬年青

本艸 一名藍 千金子 烏木毒 萬年青  
新編 蘇蘆と書て訛り 蘇蘆と云ニロサと云毒草なり

絲柏

漢名 花戸ニ垂れ花をいふ  
未詳 又櫻路のいふよりハ同類列移なり

燕子花

漳州 杜若と書き誤りたり杜若ハセブミヤウガ一名杜衡神農本草經と云ふ俗ニ以て放生  
府志 異名あり和名抄ニ劇中を加岐豆波太とす誤也劇草を馬蘭を  
萬葉集ニ恒津禰とあり縣居翁を借字なりと云り又春滿ニ翔燕花の義と云り  
萬葉集ニ木異名集ニ八顔吉花と云り又伴信友の考ニ畫附花の義と云り

蘭

食物 上代了蘭を不知波加末と言マ  
本州 今の葉と列種あり

蓮

本州 ハチスニ蓮房蜂窠に似故ニ名とす又畧て波瀆云  
細目 一名荷 草芙蓉 水花

牽牛子

本州 和名阿佐加保 華と書え別種あり華を木槿を云  
細目 一名黒丑白丑 金甌州 草金鈴 狗耳草

牡丹

神農 唐山にて花王と稱し和名ふりみま 又甘日名 名より云  
本州 一名富貴花 鼠姑 鹿韭 百両金 木芍薬

猿猴杉

漢名 未詳

梅茂登木

正字 未詳

水仙

本州 一名金盞銀臺 儷蘭 雅蕪 雅容 女史花 姚女兒花  
細目 又ニ名あり

梅

本州 採古字 棋 萬葉ニ宇米 又年女 云々  
細目 一名百花魁 又好文木の稱あり種類最多一唯宇女との移りしけを白梅なり

五鬣松

五雜 一名五釵松 五粒松 松子松 華山松 五鬣松  
又俗ニ五葉ト云

欵冬

本草 一名欵凍 顆凍 氏冬 鑽凍 菟矣 虎鬚

芭

本州 古歌ニ乎花 又波奈須々木なりと云り薄の字を用うと俗なり  
細目 一名芭茅 杜榮

女郎花

漢名 敗醬 本細  
新撰万葉ニ女倍芝と書り

萩

萬葉ニ棒 又芽子花 書り 和名 芳豆草 鹿名草  
異名 隨軍茶 胡枝花

桔梗

本州 和名抄ニ阿里乃比布木と云り又アリノヒコト  
細目 一名白藥 梗草

藤

新撰 眞蘭也 アフキ 又燕尾香  
古歌ニ雲の中をフチガマと詠ふ今ノ草々上古蹟と云り  
皇國ニハ中古以來の觀音地

瞿麥

本州 常夏古草と云ふこと云へば深殿太后壯くわいせし時撫子御と申せしハ  
細目 撫子花を云ふ事夏と唱たり 柳原玄輔の説なり

一名 蓬麥 大蘭 南天竺草 巨句麥 洛陽花  
瞿麥と即石竹なり今葩のめぐり刻畫有て切又あり瞿麥と云ふ切又ありの石竹と云





柳 ヤナギ 本艸 和名之太里夜奈木  
綱目 一名小楊 楊柳 ヤナギ 釋氏呼曰尼俱律陀樹

薔薇 セウビ 本艸 和名無波良  
綱目 一名牛勤 刺花 墻薔 山棘 牛棘 長春 ニ

棠花 ナダネ

觀音蓮 ミズバセウ 南寧府志

娑羅 シヤラ 又夏花 シヤラ 和名方言 シヤラ 漢名 シヤラ

百合 ユリ 本艸 一名摩羅 卷丹 ヲニユリ 山丹 ヒメユリ 本艸 綱目

檉柳 ギョリウ 本艸 一 ギョリウ 三 ギョリウ 次作 ギョリウ 故 ギョリウ 三春柳 ギョリウ

水楊 カハヤキ 本艸 一名青楊 蒲楊 移柳 薔苳  
綱目 和名妙 カハヤキ 加波夜奈木 カハヤキ 又銀柳 豕子柳 狗柳 カハヤキ 但三名 カハヤキ 和製名 カハヤキ

番牡丹 ハボタニ 臺灣府志

淺葱水仙 アサギ 水 アサギ 仙 アサギ 一種 アサギ あり

金絲桃 ビヨウヤキ 群芳譜 俗 ビヨウヤキ 名 ビヨウヤキ 柳 ビヨウヤキ と ビヨウヤキ 云

忍 ニ 金雀花 ニ の字 ニ を ニ 充 ニ る ニ 身 ニ 久 ニ 一 ニ 蘭 ニ 山 ニ 公 ニ 羽 ニ を ニ 是 ニ を ニ 批 ニ マ ニ ト ニ ヲ  
中 ニ 桃 ニ 桐 ニ 遺 ニ 筆 ニ 入 ニ 飛 ニ 來 ニ 鳳 ニ 子 ニ 充 ニ 一 ニ 是 ニ 亦 ニ 注 ニ 入 ニ 一

糴斗菜 ヲダマキサウ 救荒本艸

棠梨 ヤマナシ 本艸 一名 ヤマナシ ヤ ヤマナシ ブ ヤマナシ リ ヤマナシ ン ヤマナシ コ  
綱目 京師 ヤマナシ と ヤマナシ 今 ヤマナシ 世 ヤマナシ 三 ヤマナシ 四 ヤマナシ 月 ヤマナシ の ヤマナシ 頃 ヤマナシ 此 ヤマナシ 嶺 ヤマナシ 葉 ヤマナシ を ヤマナシ 賞 ヤマナシ 一 ヤマナシ 専 ヤマナシ ら ヤマナシ 瓶 ヤマナシ 花 ヤマナシ 用 ヤマナシ 云

躑躅 ツツジ 本艸 綱目

蘆草 サシカクキ 本艸 一名 サシカクキ 蘆 サシカクキ 草

棣棠花 ヤマナシ 本艸 萬葉 ヤマナシ 二 ヤマナシ 山 ヤマナシ 吹 ヤマナシ 又 ヤマナシ 山 ヤマナシ 振 ヤマナシ と ヤマナシ 書 ヤマナシ 又 ヤマナシ 數 ヤマナシ 冬 ヤマナシ と ヤマナシ 書 ヤマナシ 又 ヤマナシ 誤 ヤマナシ の ヤマナシ 也 ヤマナシ 數 ヤマナシ 冬 ヤマナシ と ヤマナシ 和 ヤマナシ 名 ヤマナシ ヤ ヤマナシ マ ヤマナシ キ ヤマナシ と ヤマナシ 言 ヤマナシ て ヤマナシ 落 ヤマナシ の

一名地棠花 麻葉棣棠 金棣棠 黃棣棠 ひととらふく金盤と云ぬ古人得る金盤喜水の四字と名と  
はる古書の單葉者名金盤喜水と云ふ註を讀誤マシヤリとこれ止羊霜の解

むき ムキ 天南星 ムキ の ムキ 一 ムキ 種 ムキ あり

鳳尾竹 ホウビ 本 ホウビ 綱 ホウビ 目 ホウビ 俗 ホウビ 云 ホウビ 鳳 ホウビ 尾 ホウビ 竹



跋



壽筵園水谷君以瓶華技  
名于家所著活花手引種後  
編初成一日訪余笑其名稱  
且書其後余閱之其布置  
整於向背曲折之法繁然

大備於是喟然嘆曰物有  
榮辱命有通塞豈唯人也哉  
雖花不然夫妖紅冶翠含  
露搖風麗然亂開者花之  
常也今也正之焉堂、焉右  
者不得左後者不以前不如

法者斬而去之者孫武子之  
侮美人諷兵也螺枝曲榦  
乍踈乍密肆然自恣者木  
之性也今也操之使直扶之  
使聳一枝一葉并然秩然者  
叔孫通之合將士習禮也及至

高堂之上明窓之下華造迭又  
几寶瓶玉壺整於既加布  
置以宜則花不榮矣於而  
君猶以為未足覃其恩渥以  
寵肖之容款題之名字上之  
梨棗傳之久遠者不於凌烟

麒麟之意也。然是不榮之極也。余於斯技固所不解也。今閱此卷，只知其為花之榮而已。雖然，臣榮之辱之者，自人而言之也。自花而言之，則吾未知其為榮為辱為幸。

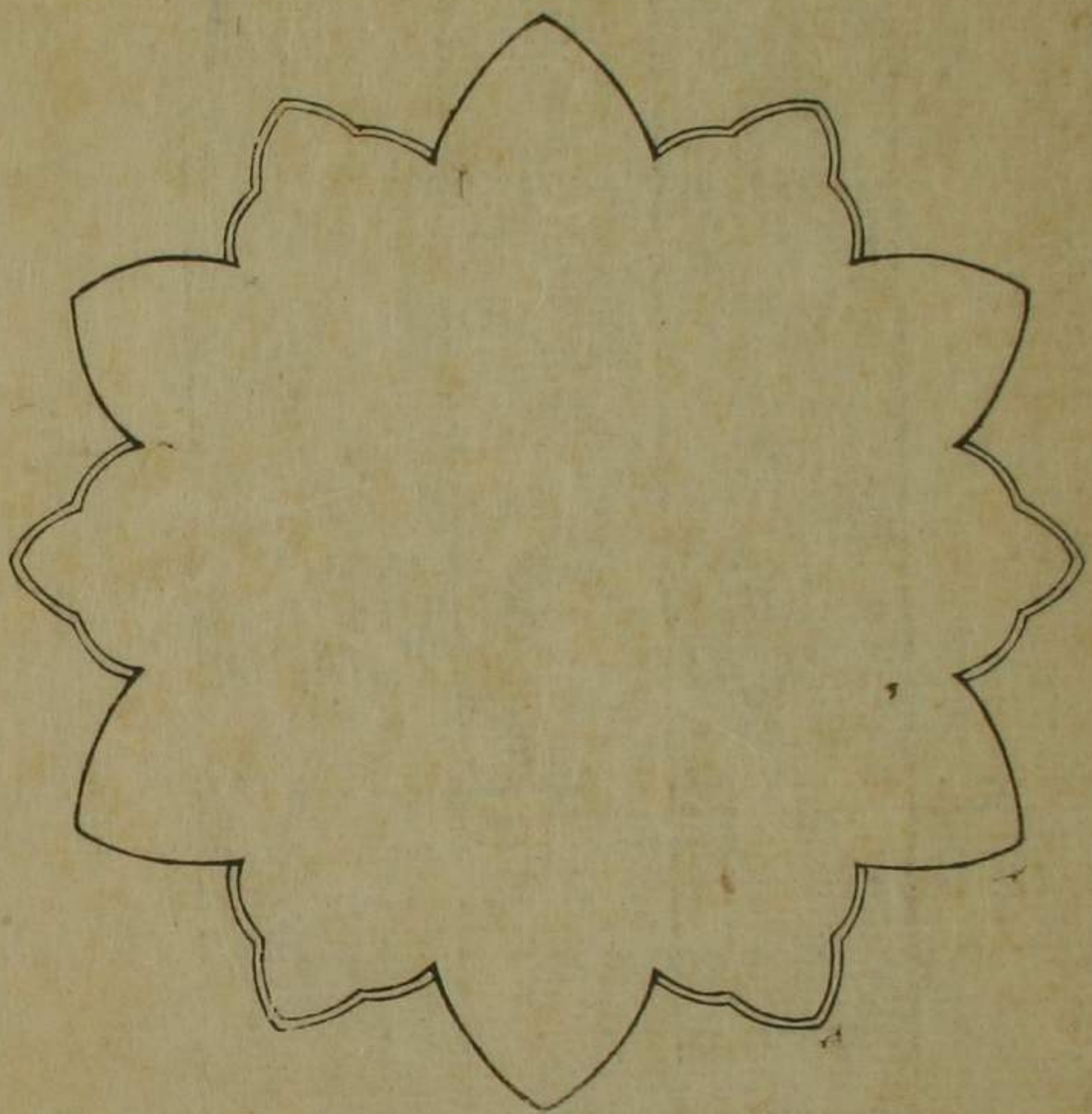
為不幸也。吾將問之於花。

止年題



男秀夫書





津逮堂藏版

京都市三條通御幸町角

吉野屋 大谷仁兵衛

